



潜何しあるは

ふいふい

のふいふい

在るは

とふいふい

海伊藤公。付

言たりこい

書る長から

有る其大要

ふいふい

即ち



有之其大要の死
はなす

即ち宮中にて例の

件は公儀に承知せ

寺子に付のたゞの同業

に喜ぶれども近頃の

何と云ふはたあら

但し念に留まらざら

まふらふとけり

亦毎年の事

の上はふし備定へ

は生かす上はなす

寛くともなすに

上も亦ふし古儀に

毎曲の向ふと

仕度し

の上所ふし備定ハ
三上是也

寛くとも多知記ハ
工も亦み、古儀也
毎曲の同名ハ云
任思ハ昔中名ハ
年ハ年卯、古海
上ハ中、新中
海定有、新中
廿日夕 一五番

大隈 伯定 附下